

1979年春－夏

俺は来たくなかったのだけれど、GFの幸枝ちゃんが、連れて行ってくれ!と騒いだのでしかたなく来ました。でも、ちひろさんの絵を見て、幸枝ちゃんが来たがった意味がわかったような気がします。赤ちゃんの絵の手の表情がなんともいえなくかわいいですね。おもわず、にぎりたくなってしまいました。これからも俺は、ちひろさんのファンのつもりです。また来ます。幸枝ちゃんと…。

1979年9月14日

五百円とはタカイと思いつつ来たのですがとても見甲斐がありました。とくに赤羽末吉はすごい。絵本だとよくわからなかったのだけれど、ものすごい技術なのです。『水仙月の四日』の線描が、近寄ってみると、なんとボールペンで! ボールペンなどという、無味乾燥の象徴のような素材を、不可欠な効果をあげて使っているすごさに、心から感激しました。ロクショウの美しさにも。

1980年8月8日

僕は今、ある予備校に通っている浪人生です。そして僕は毎日、受験のために日本史なるものを勉強しているのですが、ここに来てショックを受けてしまったのです。なぜかという、僕が勉強している戦争と、ちひろが訴えている戦争が全く違うからです。僕が一生懸命覚えている何とか条約とか、何とか宣言は、ちひろが訴えている戦争を知るうえで、何の関係もないのです。僕は今まで中学・高校と歴史なるものを教えられてきました。しかし、それはちひろが訴える戦争を知るためではありませんでした。しかし、ほんとうに学ばなければならないことは、ちひろが訴えていることではないかと思うのです。

そして今日ここに来て思ったことは、もっと心で感じることを大切にしようということです。ちひろが感じた戦争への怒り、悲しみ、これからはもっとそういうことを知ることを、大切にしていきたいと思います。

1981年11月22日 85歳 男

私は岩手県最南端北上川の田中藤沢と言う所から、落葉時雨の中をきました。次々に観入るちひろの絵に、老を忘れてすっかり陶醉して仕舞いました。私はこの2月3日で85歳となりましたが、今までかつてこの様な楽しい絵に接した事がありません。少し疲れたがきてよかったと、つくづく思っています。生涯の想い出となりました。本当に有難う。



1982年5月15日

末娘に誘われて田植えも終わった一日を東京へ出て来ました。本当に何年ぶりでしょうか。最初に訪れたのがこの美術館です。いわさきちひろさんの絵をみていたら昨年末に生まれた初孫の力君のあどけない瞳が思い出されてなりません。可愛い可愛い孫や世の中の大勢の子どもたちに絶対に戦争の苦しさを味あわせてはなりません。私も青春時代を真暗闇の戦時中に過ごした一人として。

1983年6月12日

私が高2の時に“ひとことふたことみこと”に書いた文を読んで手紙くれた女の子がいました。北海道と東京の文通が始まって一年。ぼかぼかした春の日、二人は美術館で感動のご対面…。試練の冬。絶対むりと言われた大学を意地で目指していた私の心の支えは、雪の日に届く彼女の暖かな文字でした。春が来て、北海道の女の子は学芸大生に、東京の女の子はOLに。せっかく同じ空の下で暮らしはじめたというのに、新しい生活の忙しさにまぎれて音信不通に…。ちひろ美術館がとりもってくれた縁、二人で育てた友情を終わらせたくなく、先日、忘れな草の押し花を添えた手紙を出しました。来週の日曜日、二人で会う約束です。

来館者感想ノートより

ちひろ美術館では、開館以来、来館者が自由に感想や思いをつづるノート

「ひとことふたことみこと」が館内に置かれています。

東京館 343 冊、安曇野館 235 冊となったそれらのノートは、

合本・製本され、たいせつに保管されています。

「ひとことふたことみこと」は、1999 年からは、ホームページ上にも設けています。

30 年間のノートから抜粋してご紹介します。



1983年8月6日

沖縄から来ました。きて良かった。人魚姫の原画のきれいなこと。このまま、あの部屋から帰りたくない…! って気持ち。このノートを、パラパラとめくってみるとみんな同じ気持ちなのですね。原爆の絵、思わず涙がでできます。私の住む沖縄も戦争で破壊された島の一つです。隣近所、知人たちの家族の中で、戦死者が一人もいない家族なんて、ほとんど見あたりません。“米軍の捕虜になるぐらいなら”と海へ身を投じた女子学生たち…。鎌や手榴弾で集団自決をした人々…。十五歳から十六歳の女学生たちは、学徒動員で看護婦として激戦地へ送られ、ほぼ全滅。その悲惨さは、とても言いつくせません。私の母は、ひめゆり部隊の生きのこりです。

今、私は高校の教師をしています。戦争の恐しさ、平和の尊さを、生徒たち、一人一人の心の底に深くきざみつけて欲しいと思います。そして、できれば、平和を守るための行動をおこしてもらいたい。そういう生徒が一人でも多く育つように、願ってやみません。

1984年4月4日

学生時代から来たい来たいと思いが、今日になってしまいました。大阪で教師をしています。はじめはやさしい絵とと思っていましたが、静かな中に強い意志を感じました。今回、初期の素描を拝見し、その力強さに驚いています。力強く、ひたむきな描き方を経て、静かだけども動というか意思のある絵になったのだなと思いました。描かれた子どもの目の表情の中に、ものは言わずとも、まちがったことには、静かに、しかも、あくまでも抵抗していくような力がありました。これからも、こんなちひろさんの心を少しでも子どもたちに伝えていかなければ…と考えているのです。

1987年2月8日

私達は西武沿線の老人ホームで働いているうら若き乙女達です。寮母にも一人一人個性があり、それを生かして、一人一人個性のあるお年寄りに接するというのはとんでもない大難題と痛感し、落ちこみます。今最大の夢はちひろさんの大ファンのおばあちゃんをかついででも抱っこしてでもここに連れてくること。100人のお年寄りのいる中、実行するのは不可能に近いですが絶対あきらめないんだ!

1987年2月8日

私達は西武沿線の老人ホームで働いているうら若き乙女達です。寮母にも一人一人個性があり、それを生かして、一人一人個性のあるお年寄りに接するというのはとんでもない大難題と痛感し、落ちこみます。今最大の夢はちひろさんの大ファンのおばあちゃんをかついででも抱っこしてでもここに連れてくること。100人のお年寄りのいる中、実行するのは不可能に近いですが絶対あきらめないんだ!



1987年9月27日

小さかった頃持っていた絵本の中にちひろさんの「おやゆびひめ」や「にんぎょひめ」や「ナイチンゲール」や「みにくいあひるの子」がありました。でもその本は、緑や赤の色の濃淡で印刷された本でした。中学三年のとき、担任の先生がいわさきちひろさんの画集を三冊教室に置いてくれました。その中の一冊「むらさき色の童画集」をみてびっくりしました。四、五歳の時見ていた絵本の絵が、オールカラーで目の前に現れたのですから…血が本当に全身ぐるぐるまわるのがわかる程の感動でした。その時、おくれげながらいわさきちひろさんの名前を知ったのでありました。それ以来、この原画を是非見たかった。絶対見たかった。それが今日かかって本当にうれしい。はじめてみた時「あ、同じ」と思って涙が出そうになりました。

1989年10月12日

なんて自分の娘にそっくりなの、娘の七海の表情にそっくりだもの…って一言つぶやいたら、妹が言いました。「バカネエ、おねえちゃん。ちひろさんの絵はどの絵もわが子に似ているのよ」って…納得。

1990年3月16日

三歳の娘ともうすぐ一歳になる息子と三人で来ました。絵を見に来たはずなのに、赤ちゃんライブラリーに感動した二人はここからでそうありません。展覧会や美術館を訪れる度にただただ肩身が狭く、それでも子どもたちに絵や彫刻といったものを見る経験をさせてやりたいと願う私に、ちひろ美術館の姿勢は感動的でした。

1991年5月28日

大学に入学し、つらつらと月日を重ね、はや四年。就職活動のまっただ中、訪れました。就職活動は、はっきり言って企業と学生のだましあい。どちらがうまくだませるか。どこまでだまされてもがまんできるか。社会人ってこんな生き方をしているのか…ちひろさんの絵をみてホッと人間が多いわけがよくわかる気がしました。「他の人を自分から愛せるようになることが大人になること」というちひろさんの言葉がありました。世渡り下手で、お金持ちになれなくても、私はちひろさんのような大人になりたいと思います。

1993年9月28日

原画を見る一つの楽しみは、その人が消し忘れた鉛筆の線だとか、修正した白絵の具の跡だとか、メモ書きを見つけたりすること。「あっ私たちと同じように忘れてたり間違ったり、普通の生活をしてたのだ」と思うと、なんとも言えない感じがします。



1995年5月21日

今日は二人の子連れで来ました。若いころは男ながら、決して絵本は嫌いではありませんでした。けれど男は俗世のしがらみもあり、なかなかこういふ所へ足を運ぶ機会がありませんよね。子どもができて久しぶりに、懐かしいような、ほんわかとした時間を過ごすことができました。子どもとかみさんは、この部屋の地べたに座り込んでなにやらしていますが、一番うれしそうなのは、どうやらかみさんのようです。

1998年1月6日

小6の娘と茨城のいなから来ました。いつもカレンダーの絵でちひろさんの作品を楽しんでいたのですが、実物を見ることができてとても感動しています。特にアトリエはちひろさんがちょっと席をはずしているだけ…またすぐに仕事にとりかかるからネ、とといった感じで胸にせまるものがありました。

1998年7月4日 安曇野

来るまでは、ちひろさんの絵の印象は「淡くて幻想的」だったのですが、初めてたくさん絵を見て変わりました。「強く、しっかりと伝えたいことを主張している」と思いました。でも良い意味でまた少し違ってから来たなら、その印象は変わるかもしれないと思いました。

1998年11月6日 子育てにつかれている母さん

いわさきちひろさんの絵を見ると、“子どもたちをここまで育ててきた母さんはがんばっているんだね。ありがとう”と言ってくれているようで、“うん、これからも子どもとつきあってゆくよ”と母の日のカーネーションをもらうような気持ちがして、恥ずかしくなる。でもうれしい。来てよかった。

1998年11月8日 中1

1回目来た時は「おちつく絵」のイメージだったけど、今日は、「心動く絵」みたいな感じ方になりました。何か胸から熱いものがこみあげるような感じでした。

1998年12月22日

息子が結婚しました。かわいい、やさしいお嫁さんと、そのお嫁さんのお母さんとちひろ美術館に来ました。「あら、息子の小さいときみたい」「あら、娘の顔によく似ている」ふたりの母さんはそれぞれの子どもの小さい時に思いをはせました。

1999年11月28日 安曇野

今、「1990年代の日本の絵本展」を何度もぐるぐる見てまわってきました。すごくおこがましいことですが、日本という国は大丈

夫だなど心から思いました。絵本の世界に生きるあの皆さんの存在は、本当に頼もしくて、展示室の中にいると、とても心強くて、ぬくもりに安心します。人は時にとても弱くもろいものだけれど、同じだけの強さや力も持っていて、そんな強さをすごく感じる空間でした。

2000年1月9日 ヤンママけいこ

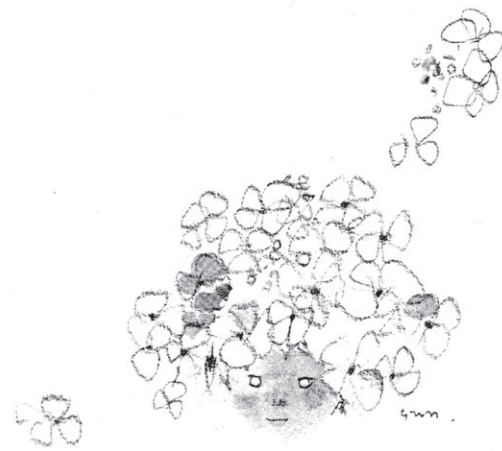
今日は子どもたちと一緒にです。16歳で産んでからもう11年。お姉ちゃんは今年で6年生になります。私はちひろさんの絵のように温かく育ててあげられてるのかな？素直に育ててくれていることが、いろんな面での救いです。大変なときもあるけど産んでよかった。また子どもたちと一緒に来ます。優しい気持ちになれました。

2000年4月29日 釧路から

ちひろさんのデッサン力に改めて驚きました。特に社会科のさし絵用のスケッチ。線が2〜3本しかないのに一生懸命働いているおばさんの力強さが伝わります。すごいなー！です。さあ！この力もらってまた明日から私も働きます。まだ春の来ない(28日大雪でした)釧路から

2000年5月2日 安曇野

開館1時間前に着き、芝生のベンチでひと眠り。久しぶりの一人旅です。広島から東京の母の世話をしに来て、ちょっと疲れてしまいました。いつかは来たいと思っていたここに来られて良かった。想像通り、何だかとてもやさしい気持ちになれました。明日から、また、私を必要としている人たちのために頑張ろうと思います。



2000年8月8日 安曇野 高1

戦争の絵をみていたら、美術館だということも忘れて、泣き出してしまいました。悲しくて、せつなくて…。二度とこんなことはしてはいけなと、改めて思いました。百の言葉より、千の言葉より、たった一言、たった一枚の絵で、伝えたいことを伝えられるちひろさんは、やはり素晴らしいと思います。これから、私はどんどん成長して、大きくなっていきます。その中で、今まで感じた、小さかった頃の気持ちを忘れず、生きていきたいと思いました。

2002年9月16日 安曇野

ちひろ美術館には、もう何回来たかな。じつはちひろの絵が見たくて来たことはありません。のんびりしたいなーとか、ラブチェ

アーにすわりたいなーとか、ひるねしたいなーなんて思うとやってくるわけです。大量生産、大量消費の時代に、一つの物をていねいに、じっくりこだわってつくるということは非常にむずかしく大変なことだと実感しています。この美術館にはそんな、じっくり、ていねいが、さりげなくつまっていて、とても安心し、共感します。

2003年3月15日

転勤で東京へきて3年。4月にまた転勤で福岡へもどります。最後にやってくるのができて、よかったです。またぜひ訪れたいと思います。ちひろの原画を初めてみて発見したこと！こどもの指先がほんのりピンク色。本当に赤ちゃんもそうなのかしら。やわらかい。ちひろが描いたやわらかい赤ちゃんに会いたいと思います。早くその日が私にも訪れますように。

2003年4月29日 安曇野

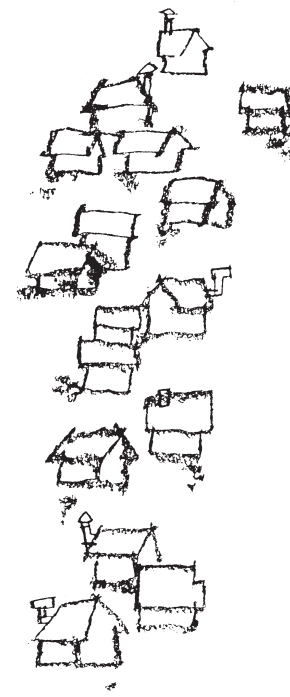
バイクで走っていて、「ちひろ」の文字を見て5分ほど走って何故かUターン。あることも知らなかったのにねえ…。いい美術館ですね！枕があって、ねられるのがうれしい。ベンチがいっぱい、絵のところにあるのがいい。絵に向き合って真剣に見るとスゴイエネルギーいるから。こういうことをわかっていて、絵をちゃんと見る準備をしてくれるのがいいですね。後で子どもが「あそこでゴロンとしてみたい！」ってとんでった。みんな忙しく、ゆとりなくとげとげしく冷たく生きてます。「戦争」にも無関心でいられる魂になってるもの。ここでふだんなくしているものを思い出し、ほんとはやるべきことを帰ったらしっかりやろっとな!! 沖繩のひめゆり記念館に行って以来の☆3つです。

2003年11月26日

結婚して3年たっても、自分が人の親になる自信がもてず、子供をもつことに迷い続けています。でも今日ここに来て、そんな気負いよりもただあたたかい気持ちで子供をみつめればよいのかもしれないと、思いました。私自身も母にいっぱい愛されて育ったんだなあ、と何故か母の顔が浮かびます。ここでカードを買って手紙を書こうと思いました。

2004年5月9日 安曇野

7才の娘に、説明をしながら見ているうちに涙がでできました。特に、戦争に関する絵を見ても、娘は理解できず質問攻めでした。理論以外や見えるもの以外で気持ちを伝えることの難しさや、すばらしさをとても感じました。また、まどみちおさんの作品は小学校の国語の教科書で使用されています。心の豊かさを表現している作品に子供達がどのような気持ちで手にしたり、読んでいたりするのか、上手に読む事だけに夢中になって読んでいる娘を見て、親として何か伝えなければと考えさせられました。



2005年3月1日

母と来て、じっくり、ゆっくり見えています。まるでちひろさんとお母様の文江さんの様な気になって…。心を豊かにしてくれる時です。疲れた心を癒してくれました。ありがとう。

2005年7月3日

最近来ていなかったので、びっくり！リニューアルされとても美しく、心落ち着ける異空間になっていました。日々の慌しく、そして空しい心を潤わせようとふらっと寄ってみました。目先の出来事に動かされることなく、大きく物事を見る目、心のゆとりを持つとうと感じられたひとときです。

2005年7月30日 安曇野

長新太さんに会いに来ました。6月25日の訃報以来、ずっと来たいと思っていたのに、一ヶ月余りたってしまいました。展示室に広がる長さんの赤、黄、青…。『へんてこらいおん』がいる、『ゴムあたまボンタろう』は東京館の展示の時のものかなあなんて…。懐かしくて新しく、大胆な長さんの作品が大好きです。ちひろ美術館が1000点以上の長さんの作品を保管していると聞いてほっとしました。また、いつでも会えますよね。ありがとうとお疲れさまと、これからもよろしくねと伝えたくて。

2006年5月20日 韓国留学生

韓国から来た留学生です。『窓ぎわのトットちゃん』は韓国でもすごい人気だったので、ちひろさんの絵が好きな人々もたくさんいます。生でちひろさんの絵をみるのが出来てすごくうれしいです。また来ます。

2006年12月2日

昨日、小学生の娘がイジメにあっていることを告白しました。がまんしていたのが、一気に溢れるように泣きました。いろんな話をしているうちに絵の話になり、ちひろさんの話になり…。ホームページで美術館を本人が見つけた。「明日行こうか」「ホント!？」みるみる明るく笑顔になりました。イヤなことを一時でも忘れさせてくれる絵のあたたかさに心打たれます。「命」を教えてくれるすばらしい絵だと思えます。

2007年1月31日

大好きなノルシュテイン/ヤールブソワ作品の原画が見られて嬉しかったです。印刷された絵本ではどうしても失われてしまう、テクスチャーや色の深みを堪能することができました。ありがとうございます。映画ともまた違った魅力がありました。彼らの作品の展示会場として、ちひろ美術館さんはとても合っているように思います。初めて来ましたがステキな美術館でした。

